令和5年度　大田区立糀谷中学校　自己評価　報告書

令和5年3月1日

○　本校の概要

◇東蒲中、羽田中の学区変更により、昭和28年9月に開校。今年度、開校70周年を迎える。都内で8校しかない夜間学級設置校でもある。
◇生徒数400名、学級数12学級、教員数21名
◇特色ある教育活動としては、特に次の5点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「いじめ防止プログラム」「職場体験」「福祉体験」など体験的な取組を重視し、生徒の自己肯定感の高揚を図っている。③地域との連携に力を入れている。特に、防災教育については、町会及び関係機関と連携した学校防災活動拠点訓練の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を行っている。⑤生徒会・委員会活動、学校行事、部活動などを通して、生徒の自主性を育て、生徒主体の活動ができるようにしている。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	①全国学力・学習状況調査で「1，2年生のときに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか」という問いに「ほぼ毎日」または「週3回以上」と答えた生徒の割合 4:70%以上　92.4% 3:50%以上70%未満 2:30%以上50%未満 1:30%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「子どもは学習用タブレットを家庭学習で有効に活用している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた保護者の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満　57.4% 1:40%未満	3	◇英語の授業で、外国語教育指導員活用し、会話の機会を増やしたりスピーキングテストを実施している。 ◇理科の授業では、観察や実験を重視した授業の展開を心掛けている。理科指導専門員の理科教育通信や指導教諭の公開授業の機会などを活用し、さらに充実を図っていきたい。 ◇ICTを積極的に活用する教員が増えている。ICTの校内研修などで、さらに全体的なスキルアップを図っていきたい。 ◇学校の特色である「いじめ防止プログラム」(1年)、「人権作文」(2年)、「福祉体験」(3年)などの学年ごとの取組に加え、SNSによる人権侵害の講演会を実施した。 ◇保健体育科に委ねてしまっている部分が多い。直接的な指導を行う機会が無い教員も含めて、全教員が体力向上について意識を高めていくようにしたい。	A	6	・外国語やICT授業を通してコミュニケーションを大切にしていただきたいと思います。 ・評価は適切と思います。 ・外国語教育、理科など充実を図っていると思われます。また人権教育にも力を入れているとのことで、とても良い方向に進んでいると思います。 ・コロナが明け、体力の向上に今一度高めていきたい。 ・令和5年5月よりコロナが5類となり、ハンドリングは難しかったと思われるが、多くのイベントが対面となり、リアルなコミュニケーションをとれるように適切な運営となったと思う。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3				B	5	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	3						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3				C	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2				D	0	
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた生徒の割合 4:90%以上　91.1% 3:75%以上90%未満 2:60%以上75%未満 1:60%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「学校は、子どもの能力を適切に評価し、学習意欲を高めている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた保護者の割合 4:90%以上 3:75%以上90%未満　79.3% 2:60%以上75%未満 1:60%未満	3	◇夏休みや2学期末の三者面談で、学習面に関するアドバイスを行った。生徒の学習習慣の定着のために、各教科の授業で勉強の仕方について指導すると共に、学校だより・学年だよりを活用し、家庭学習の内容や方法について保護者にも伝えていきたい。 ◇Web版ステップ学習は、扱いにくく十分に活用できていない。 ◇学習補助員を活用した放課後や土曜日の補習の他に、定期考査前に学年で質問教室を広く開くなど、補習の充実に努めた。補習教室を申し込んだ生徒で、欠席の多い生徒には、出席を促す指導を行っている。 ◇授業改善推進プランの活用や評価と指導の一体化の研修には、引き続き力を入れて取り組んでいく。	A	5	・ステップ学習が改善されれば、より効果が見られる。補習などに生徒が、自ら参加するよう指導を期待する。 ・学習指導にしたがった指導をいただきたいと思っています。 ・評価は適切と思います。 ・自己評価は適切だが課題として学力レベルが大田区の西の方との差があると感じる。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2				B	5	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4				C	1	
		学習指導要領のねらいを踏まえた評価方法の工夫をし、指導と評価の一体化に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3				D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	①全国学力・学習状況調査で「自分には、よいところがある。」という問いに「当てはまる」または「どちらかというと、当てはまる」と答えた生徒の割合 4:80%以上　88.7% 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「子どもの学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えたとと答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満　82.6% 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇小中一貫スタンダードなどを活用し、基本的生活習慣や授業規律の確立について、全教員が意識して指導した。さらに、防寒着の決まりの緩和について、生徒会を中心に生徒に考えさせ、きまりについての意識を高めた。 ◇7月に道徳授業地区公開講座を開催し、9月に情報モラルやデジタルシチズンシップを題材とした校内研修会を行った。道徳授業の充実のために、「考え、議論する道徳」についての研修を行っていきたい。 ◇6月と11月に、学校生活調査とWebQUを実施し、結果を基に必要な生徒には教育相談を行った。 ◇年3回のアンケートで、いじめの早期発見に努めた。学校いじめ防止基本方針の内容について、職員会議で確認し、取組についての理解を深めた。 ◇ケース会議は必要に応じて、子ども家庭支援センターや児童相談所と連携して行っている。 ◇朝礼や学活の機会などを捉え、生徒の良い行為や努力した点を、褒めるよう努めている。	A	6	・普段の子ども達の様子をみていると落ち着いているように感じるが、イジメなどに対する指導は早め早めの対応を望む。 ・小中一貫、義務教育を一貫として指導されることは重要と思っております。 ・評価は適切と思います。 ・1年生のコミュニケーションの環境による問題行動は課題と感じた。適切な対応はされていると思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2				B	5	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				C	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3						
		生徒の良い行為や努力した点を、効果的に褒め、自尊感情を育む。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4				D	0	
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	①生徒アンケートで「健康や安全に気を配って生活できている。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた生徒の割合 4:90%以上　93.4% 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ①生徒アンケートで「部活動に積極的に参加している。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた生徒の割合 4:90%以上　94.8% 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	4	◇保健だよりや給食だよりを通じて「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を図っている。 ◇家庭科や保健体育科の授業に栄養士がTTで入り、食育の授業を充実させている。日常的にも給食だよりや掲示板やお昼の校内放送を活用し、食育を推進している。 ◇体育科が中心となって、授業や体育的行事で体力向上の取組を推進している。運動部の活動も、各部で力を入れ成果を上げている。	A	7	・座学だけでなく、身体を使った教育も重要と考えます。 ・評価は適切と思います。(2票) ・各部活動が盛んで、良い状況であると思う。給食も子ども達から評判が良い声を聞く。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3				B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3				C	0	
								D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	①保護者による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満　80.0% 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「施設・設備の整備・修理は適切に実施されている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満　87.2% 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇アンケートを回覧し改善に生かしているが、回答数が少ないため回収率を増やす工夫が必要である。 ◇主題を「生徒が主体的に学習に取り組むための工夫」とし、「評価と指導の一体化」と「ICTの活用」の視点で校内研修会を実施した。 ◇研究発表会や各種研修会は、多くの教員が参加し、授業改善に生かしている。さらに、還元研修や資料の供覧を確実に実施していきたい。 ◇サポートルーム専門員と特別支援教育コーディネーターの主導で、校内委員会を実施した。 ◇個々の教員がユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備に努めているが、学校全体で組織的にはできなかった。	A	6	・コロナ後、公開授業にも保護者が多く参加してきているのでで、保護者の声をより活かしてほしい。 ・生徒同士のコミュニケーションを大切にした教育を続けていただきたいと思います。 ・評価は適切と思います。 ・もう少しパソコンを使用した学習があっても良いと思った。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				B	5	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
		どの生徒にも学びやすい環境を作る視点で、ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	①保護者アンケートで「学校の様子をHP・メールや学校からの案内プリント等で知ることができる。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」とと答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満　83.5% 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育活動に活かしていますか。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満　78.1% 1:70%未満	2	◇学校だよりや給食献立表など毎月1回の更新はできているが、学校日誌などの更新回数は増やせなかった。 ◇学期に1回の地域連絡教育連絡協議会で学校の情報を具体的に報告している。学校行事の公開も、コロナ前と同じように出来るようになった。 ◇2年生のマナー講習会や3年生の福祉体験など、学校支援地域本部に依頼している取組が定着してきた。コーディネーターの増員など、持続可能な運営について、本部と連携して考えていきたい。 ◇6月に1年生全員と夜間学級の希望生徒と2，3年生のボランティア生徒が参加し、学校防災活動拠点訓練を実施した。炊き出し訓練は実施できなかったが、飲料水確保訓練を行うなど、コロナ前に近い状態で訓練を実施することができた。	A	6	・今後も地域とより一層の協力体制をとり、子ども達のために改善してほしい。 ・地域への関わりがアンケートによると薄いような気がします。 ・評価は適切と思います。(2)
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4				B	5	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				C	0	
		特別出張所、町会と連携し、地域の特性を生かした安全・防災教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				D	0	

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である　B:自己評価はおおむね適切である　C:自己評価は適切ではない　D:評価は不可能である　の4点について、評価した人数